



図5-15は、木造家屋の被害状況を県当局の統計を基礎にして、市町村別に被害率を算出して図化したものである。被害の大きかったのは、静岡県太田川付近と愛知県三河部の福地村と一色町であった。なかでも弓取川や矢作古川に沿う市子・斉藤・熱池・道明記・平口（以上現在の西尾市）および池田・大塚（一色町などは被害が甚大であった。（表5-34参照）

表5-35 東南海地震の部落別死亡者数  
(昭19.12.7)

字 名	男	女	計
治明南部	1	2	3
赤羽		1	1
中外沢		1	1
生田		1	1
大塚	1	2	3
松木島		3	3
前野		1	1
計	2	11	13

(一色町役場)

一色町の被害は、全壊家屋505戸、半壊家屋1,524、死者13名、重傷者6名である。家屋の被害率は26.9%で、福地の73.7%に比較すると低いが、旧幡豆郡内では2番目に大きい被害であった。部落別の死亡者数は表5-35のとおりである。

一色町の被害は、全壊家屋505戸、半壊家屋1,524、死者13名、重傷者6名である。家屋の被害率は26.9%で、福地の73.7%に比較すると低いが、旧幡豆郡内では2番目に大きい被害であった。部落別の死亡者数は表5-35のとおりである。

図5-16 地盤変動状況図(岡崎土木事務所分所)

